

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02904

研究課題名(和文) ニーズ表明の難しさを踏まえた対話プロセスを実現する：発達障害の子どもと合理的配慮

研究課題名(英文) Interactive Process and Reasonable Accommodation for Children with Developmental Disabilities

研究代表者

飯野 由里子 (Iino, Yuriko)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・特任教授

研究者番号：10466865

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、学校教育現場における合理的配慮の対話プロセス(建設的対話)が、ニーズ表明に困難を感じる子どもたちの存在を考慮に入れた形で実施されるための環境や方法を明らかにすることを目的に実施した。具体的には、障害の社会モデルに基づく研修プログラムと対話プロセスの点検・改善のための研修プログラムを開発・実施し、効果検証を行った。その結果、学校教職員が合理的配慮に関して誤解しやすいポイントを特定し、合理的配慮提供に求められる対話プロセスを6つのステップに分けて点検するスキームを提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、合理的配慮を実施していく上で重視されている対話プロセス(建設的対話)を難しくしている要因を、社会的障壁の観点から検討することを通して、対話プロセスを円滑に進めていくための環境、条件、方法を明らかにした点にある。これら知見をもとに、学校教職員を対象とした研修プログラムを開発・実施することで障害の社会モデルに基づく合理的配慮の実施を推進した点、教育委員会による既存研修をより効果的に実施するためのポイントを特定した点において社会的意義を有している。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the environment and methods for implementing the interactive process of reasonable accommodation in school educational settings in a manner that takes into account the presence of children who experience difficulties in expressing their needs. Specifically, a training program based on the social model of disability and a training program for inspection and improvement of the interactive process were developed and implemented, and their effectiveness was verified. As a result, we identified the points where school faculty members are prone to misunderstandings regarding reasonable accommodation, and presented a scheme to inspect the interactive process required for providing reasonable accommodation in six steps.

研究分野：障害学、フェミニズム

キーワード：合理的配慮 建設的対話 社会モデル ニーズ表明 社会的障壁 発達障害

1. 研究開始当初の背景

近年の学校教育現場の重要な課題のひとつに、発達障害のある子どもへの支援がある。発達障害は身体障害と違って、可視的な印を手がかりに障害の有無を判断することが難しい「見えない障害」であるため、自分からニーズを表明しなければ、合理的配慮に向けた対話プロセスが開始されにくい。ところが、発達障害のある子どもたちからは「ニーズ表明をしたくない」とか、「学習上に困難があることを伝えたが、先生に信じてもらえなかったので、ニーズ表明がしにくくなった」という声が聞かれる。このことは、ニーズ表明に難しさを感じる子どもが数多くいる可能性や、子どもが行ったニーズ表明が配慮提供者(学校や教員)との対話プロセスにつながっていない可能性を示唆している。こうした状況を問題と捉え、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学校教育現場における合理的配慮の対話プロセス(建設的対話)が、ニーズ表明に困難を感じる子どもたちの存在を考慮に入れた形で実施されるための方法を明らかにすることで、学校教職員を支援することにある。

3. 研究の方法

本研究では、「見えない障害」である発達障害のある子どもへの合理的配慮を有効に機能させるためには、彼ら/彼女らがニーズ表明をめぐり経験している難しさを踏まえた対話プロセスの実現が重要との前提に立ち、以下の3つを実施した。

- A. ニーズ表明を難しくしている社会的要因に関するヒアリング調査
- B. ニーズ表明の難しさを踏まえた対話プロセスの実現に向けた研修プログラム開発
- C. 研修プログラムの試行実施及び効果検証

4. 研究成果

本研究を通して、障害の社会モデルに基づく研修プログラムと対話プロセスの点検・改善のための研修プログラムを開発し、4つの地域(東京都、大阪府、山形県、和歌山県)の公立小中学校に勤務する教職員に対し実施した。その一部は『インクルーシブな学校づくりハンドブック 2022』及び『インクルーシブな学校づくりハンドブック 2023』にまとめ、東京大学バリアフリー教育開発研究センターのサイトで公開している。

また、17項目からなるアンケート調査を用い、学校教職員が合理的配慮に関して誤解しやすいポイントを特定した。その結果、柔軟な対応よりも画一的な対応が望ましいと考えられていること、障害のある子ども本人の意思よりも専門家による判断が重要だ

と考えられていること、学校に課せられている合理的配慮義務とクラスメート間の「助け合い」を推奨する規範が未分離であることなどが明らかになった（図1参照）。

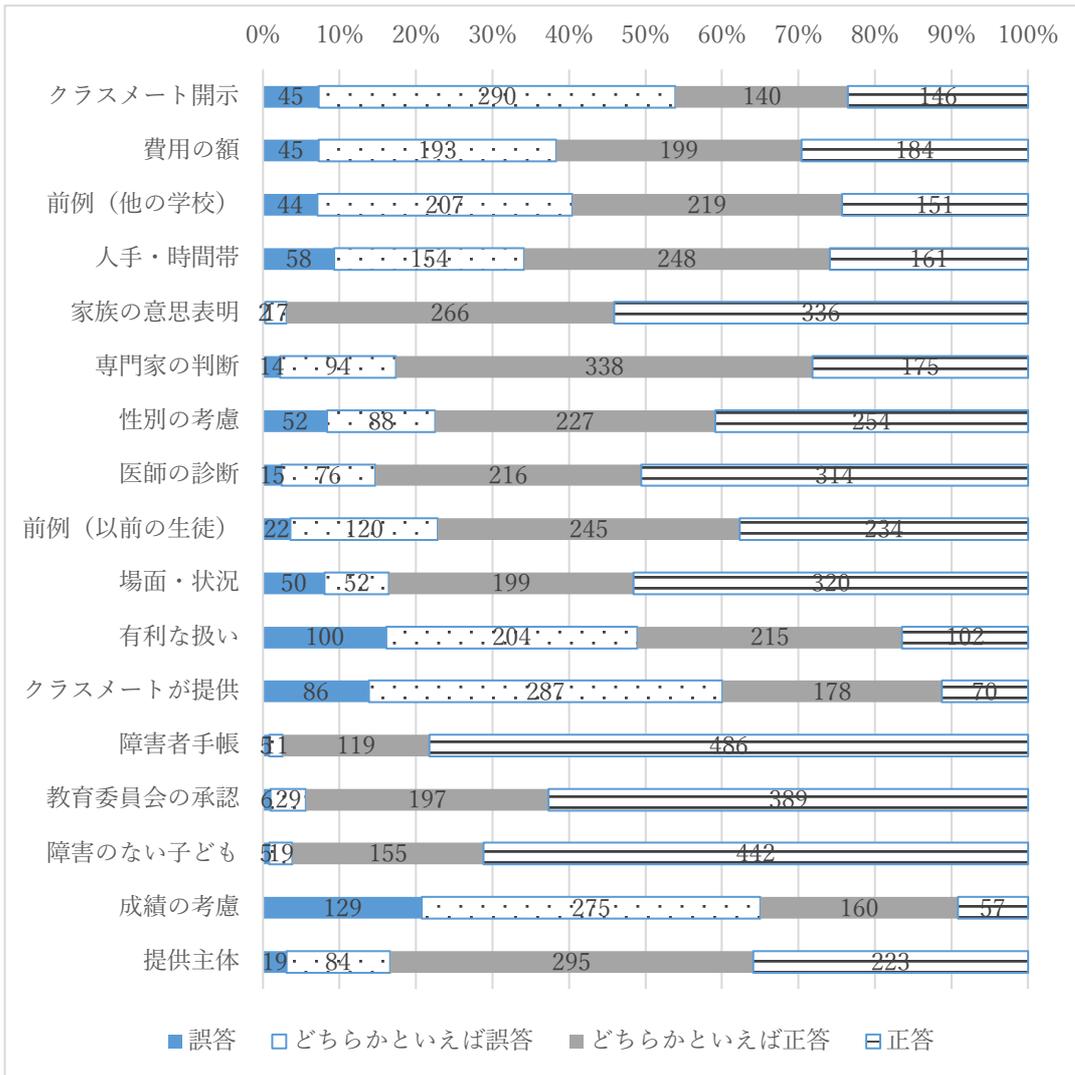


図1 質問項目別の正答率

加えて、合理的配慮提供に求められる対話プロセスについて、以下6つのステップに分けて点検するスキームを提示した。

1. 合理的配慮の要望
2. 社会的障壁を特定するための情報の収集
3. 考えられる調整方法の検討
4. 調整の選択
5. 調整の実施
6. 調整のモニタリング

さらに、これらステップを子どもの意見を反映しながら踏んでいく際の注意点も整理した。具体的には、言語的なやりとりに頼りすぎず、「環境の整備」（事前的改善措置）により観察される行動の変容等も参考にしながら、建設的な働きかけを行う必要がある、などである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 49-13
2. 論文標題 「障害があるように見えない」がもつ暴力性－ルッキズムと障害者差別が連動するとき	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 6
2. 論文標題 合理的配慮の誤解を解く鍵は「社会モデル」にある	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 活動報告	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002003385	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 飯野 由里子	4. 巻 47-13
2. 論文標題 『思いやり』を超えて - - 合理的配慮に関わるコンプライアンスの新たな理解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 平林ルミ・飯野由里子
2. 発表標題 合理的配慮理解度調査から見てきたもの - 研修ターゲットの特定に向けて
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平林ルミ・飯野由里子
2. 発表標題 合理的配慮における子どもと学校の対話プロセスの分析－読み書き障害のある子どものICT活用に焦点をあてて
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Iino, Yuriko.
2. 発表標題 Game-Based Diversity Education in Japan
3. 学会等名 The European Conference of Politics and Gender (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯野由里子・平林ルミ・日隈脩一郎
2. 発表標題 合理的配慮理解を阻むもの 学校の文化・慣習・価値観というバリア
3. 学会等名 日本教師教育学会第33回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 飯野由里子、星加良司、西倉実季	4. 発行年 2022年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 257
3. 書名 「社会」を扱う新たなモードー「障害の社会モデル」の使い方	

1. 著者名 清水晶子、ハン・トンヒョン、飯野由里子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 251
3. 書名 ポリティカル・コレクトネスからどこへ	

1. 著者名 菊地夏野、堀江有里、飯野由里子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 226
3. 書名 クィア・スタディーズをひらく3 健康/病、障害、身体	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	平林 ルミ (Hirabayashi Rumi) (30726203)	東京大学・教育学研究科・特任助教 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------